

竹田市に住む。



活気づいた「ふるさと」竹田に戻ってみたい

竹田市で地域おこし協力隊として活動する黒阪旅人さんは2021年9月にUターンした。黒阪さんは、小学校から高校までの12年間竹田市で過ごし、関東の大学に進学後、東京の企業に就職した。



職業：地域おこし協力隊
家族：妻
出身地：大阪府堺市
前住所：千葉県松戸市
移住時期：2021年9月

Kurosaka's Family

黒阪 旅人さん（31）

の頃から付き合っていた方と結婚することになり、今後、住む場所や子育て環境を考えた際に「ふるさと」である竹田に戻ることを決意した。

たくさんさんの魅力が詰まった竹田での活動

「ふるさと」である竹田のために、これまでの経験を活かした活動をしたと考えたところ、地域おこし協力隊制度を知り応募した。

活動内容は、学校やイベントでのものづくりワークショップの開催、デジタル工作機械を使用して看板製作、竹田を利用した商品開発、学校の授業等で自分のUターン経験の発信を行っている。また、最近では2017年に祖母・傾・大崩ユネコエコバリーに登録された祖母山麓エリアで渓流魚「アマゴ」をテーマにした自然ガイドも行っている。

活動をする城下町は、まちを歩けば知り合いがいるコンパクトな環境が心地良い。意外と同世代の仲間たちも竹田に住んでいた。若いうちに地元に戻り、色々な仲間とともに活動できていることが良かった。

自分の経験を竹田のために活かしたい

改めて戻ってきた「ふるさと」竹田をまだまだ活気づけたいと思っており、社会人としての経験、そして今活動している地域おこし協力隊の経験を、自然豊かな竹田の特徴を生かして「ものづくり」「自然」をキーワードに活動を展開していきたい。子どものころ12年間過ごし、そして大人になって戻って感じた竹田の魅力、今後は生まれてくる子どものために残していきたいと思う。

最後に私が竹田で特に好きな場所は、城下町にある広瀬神社からの眺め。城下町を一望でき、ジオラマのようにコンパクトにまとまった景色を眺められる。ぜひ、城下町を散歩する際は立ち寄ってほしい場所である。



豊後大野市に住む。



Asano's Profile

浅野 順子さん（39）

2021年に福岡県から豊後大野市へ移住。テレワークを中心に幅広く活動をしている。

移住の決め手は「人との出会い」

福岡県から豊後大野市へ移住された浅野さん。移住前は、



語学力を活かして、韓国、シンガポール、モルディブ、オーストラリア等世界各地でグローバルに活動されていた。世界を飛び回らる中で、「自然豊かな場所でも暮らしたい」という思いが芽生えたそう。「30歳になる年にオーストラリアのタスマニアでホームステイという地域は、手っ取り早い自然が残っている。そこでは自給自足の生活を体験して、案外苦じゃなかったんですよ（笑）。その後、ニュージランドでも自然に囲まれて生活をして、こういう生き方を続けていきたいと思うようになり、移住先を探した。日本に戻り、移住先を探した中でいくつか地域を回られたそう。その中で、稲穂水中鍾乳洞に行くために訪れた豊後大野市。移住先候補の中に残っていて、再度豊後大野市を訪れたとのこと。そこで出会った「人」との繋がりから、豊後大野市への移住を決意された。

移住希望者の壁「住まいと仕事探し」

移住希望者にとっての大

きな壁である「住まい」と「仕事」探し。浅野さんは、「キーパーソン」との出会いから、住まいと仕事が決まり、それが豊後大野市への移住の後押しになったそう。いきなり移住するのではなく、お試しで1カ月豊後大野市に滞在された浅野さん。そこで地域に幅広い人脈を持つておられる方、いわゆるキーパーソンに出会ったとのこと。「その方に住まいと仕事を探していることを伝えたら、すぐに紹介してくれて、トントン拍子に住まいも仕事も決まりました。住まいや仕事探しに苦労される移住希望者の方も多い。アドバイザーをお聞きしたところ、「まずは声に出すことが大事。いろいろな人に相談をしていざ自ずと情報が入ってきます。インターネット上に情報が出ていない物件や仕事もたくさんあると思うので、地方では、ローカルネットワークをフルに活用する」と



いいと思います。」

ローカルからグローバルな出合いを

現在テレワークでお仕事をされた方、テレビ番組で地域の魅力を発信するリポーターを務められたりと、幅広い活動をされている浅野さん。豊後大野市で今後やりたいことをお聞きしたところ「バックパッカーズホステルのようなイメージの宿泊施設を運営したいなと思っています。極端に綺麗な景色があるわけではありませんが、田舎の当たり前の風景を楽しんでほしい。気軽に立ち寄れる場所を目指したいです。語学力を活かして外国の方にも日本の田舎の文化や暮らしを伝えていきたいです」と語っていただきました。豊後大野市は日本ジオパークに認定されており、ジオパークの魅力や地域や観光客のみならずに伝えていただくガイドを養成している。次年度、浅野さんもガイド取得を目指されるのか。グローバルな視点を持ちながら、ローカルな暮らしやコミュニティを大事にされている浅野さん、今後の活躍が楽しみです。

暮らし実感 竹田市はこんなまち

おすすめのイベントは？

毎年11月に行われる「竹楽」というイベントです。竹を切り、灯を灯しただけのシンプルな竹灯籠が城下町中に並ぶ風景に感動します。



子どもが楽しむ場所

日本名水百選に選ばれた竹田湧水群の中の一つ河宇田湧水の横にある河川プール。夏には多くの子どもたちが楽しむ場所、無料開放しています。

移住サポートは充実しています。移住のことなら、竹田市にお任せください！

竹田市はこれまで、移住・定住政策を推進し、若者やアーティストなど300名以上の移住を実現しました。「空き家改修事業補助金」や「Uターン促進住宅取得・住宅改修事業補助金」、「移住応援給付金」などの助成制度があり、あらゆる移住に対応できるよう努めています。

竹田市政府 総合政策課
〒878-8555 竹田市大字々々1650 番地
TEL 0974-63-4801
E-mail seisaku@city.taketa.lg.jp



竹田市移住サイト

空き家バンクや移住補助金を活用ください！

空き家バンクを通じて、住宅の購入や改修をされた移住者の方に対して、最大100万円の補助金があります。（子育て世帯には20万円の加算あり）また、空き家バンク制度は随時相談・受付を行っています。まずは移住や住まいに関する情報を総合的に詳しく掲載している豊後大野市移住定住ポータルサイト「ぶんごおおの暮らし手帳」を検索ください。

豊後大野市役所 まちづくり推進課
〒879-7198 豊後大野市三重町市場1200 番地
TEL 0974-22-1004（直通）
E-mail bo060020@city.bungoono.lg.jp



ぶんごおおの暮らし手帳

子育て環境は？



移住したママ達のより所として利用されています。

オススメの場所は？

関係人口交流拠点施設「cocomio」では、ゲストハウスや coworkingスペースの利用のほか、起業・創業・就職など幅広くごにまつわる相談もできます。ぜひ一度お越しください。



Advice & My Favorite